

# 学校法人 兵庫医科大学

建学の精神

社会の福祉への奉仕  
人間への深い愛  
人間への幅の広い科学的理解



## 西宮キャンパス

### 兵庫医科大学 兵庫医科大学病院

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号  
☎0798-45-6111(代)  
https://www.hyo-med.ac.jp/ (大学)  
https://www.hosp.hyo-med.ac.jp/ (病院)  
https://www.corp.hyo-med.ac.jp/ (法人)

兵庫医科大学

### 健康医学クリニック

〒663-8137 兵庫県西宮市池開町3番24号  
☎0120-682-701  
https://www.hyo-med-kenshin.com/



## 神戸キャンパス

### 兵庫医療大学

〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番6  
☎078-304-3000(代)  
https://www.huhs.ac.jp/



## 篠山キャンパス

兵庫医科大学

### ささやま医療センター

〒669-2321 兵庫県丹波篠山市黒岡5番地  
☎079-552-1181(代)  
https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/

兵庫医科大学

### ささやま老人保健施設

兵庫医科大学

### ささやま居宅サービスセンター

〒669-2321 兵庫県丹波篠山市黒岡36番地  
☎079-552-6840(代)  
https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/

< 広報誌の送付先変更や配送停止に関するお問合せ >

#### 【兵庫医科大学 卒業生(緑樹会会員)の方】

兵庫医科大学 同窓会緑樹会  
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号  
兵庫医科大学 教育研究棟 3階  
☎0798-45-6448 (平日13:00~17:00)  
✉ryokuju@hyo-med.ac.jp

#### 【兵庫医療大学 卒業生の方】

兵庫医療大学 キャリアデザインセンター  
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番6  
兵庫医療大学 M棟 1階  
☎078-304-3100 (平日8:30~17:00)  
✉careerdesign@huhs.ac.jp

#### 【その他の方】

学校法人 兵庫医科大学 総務部 広報課  
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号  
☎0798-45-6655  
✉kouhou@hyo-med.ac.jp

#### 【兵庫医科大学 保護者の方】

兵庫医科大学 学務部 教学課  
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号  
兵庫医科大学 教育研究棟 2階  
☎0798-45-6159 (平日8:30~16:45)  
✉kyo-gaku@hyo-med.ac.jp

#### 【兵庫医療大学 保護者の方】

兵庫医療大学 学生支援課  
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番6  
兵庫医療大学 P棟 1階  
☎078-304-3007 (平日8:30~17:00)  
✉gakuseishien@ml.huhs.ac.jp

学校法人 兵庫医科大学 広報誌

兵医広報 vol.254 (2021 SUMMER)

発行日/2021年7月26日  
発行元/学校法人兵庫医科大学 総務部 広報課

# 兵 医 広 報

2021  
SUMMER  
vol.254

特集

新しい一歩

次の50年への

# 新Uー決定



# 次の50年への新しい一歩

# 新UI決定

2022年の春に開学50周年という節目を迎える兵庫医科大学。

次の50年に向けた新たな一歩として、新しいユニバーシティ・アイデンティティ(UI)を策定しました。スローガンの「EMPOWER THE PEOPLE 心に響く医を、私たちがいるかぎり」には、人々に生きる勇気や希望を与えられるような、心に響く医療人をめざしたいという想いが込められています。在学生や卒業生、教職員などが一緒になって考えた、これからの私たちがいるべき姿を示すUIをご紹介します。

## UI(University Identity)とは

UI(ユニバーシティ・アイデンティティ)のこと。大学の特徴や理念を表したもので、「兵庫医科大学が何のために存在しているのか?これからどうありたいか?」という個性を表現しています。2022年4月1日からUIを刷新するにあたり、建学の精神や在学生・卒業生・教職員の想い、兵庫医科大学・兵庫医療大学が持つ強みなどを踏まえた上で、新たなスローガン、ビジョン、ステートメントを策定しました。

## 新UI策定のプロセス

新UIについては役員の見のみで決定するのではなく、インタビューやワークショップなどを通して在学生・卒業生・教職員から幅広い意見を集め、検討しました。2020年8月から在学生・卒業生・学校関係者へのインタビューを実施し、9月から10月にかけて教職員間でのワークショップを開催。ここで出された意見を取りまとめ、役員等による検討会を実施し、2021年1月28日に実施した理事会でUIを正式決定しました。

※策定のプロセスの詳細については次号以降に改めてご紹介します。

## スローガン

### スローガン

# EMPOWER THE PEOPLE

## 心に響く医を、私たちがいるかぎり

EMPOWER THE PEOPLE、人々に勇気や希望を与え、生きるパワーを湧き出させること。

それこそが私たちのめざす心に響く医療です。

学校法人兵庫医科大学に属するすべての医療人、研究者、教職員、学生は、この想いを胸に一体となり、明日の医療の創造に挑み続けます。

## ビジョン

### ビジョン

私たちは、一人ひとりの人生が豊かな社会をめざします。そのために、仲間と共に知識・技能・人間性を高め合い、新しいこたえを何があっても追究し続けます。

## ステートメント

### ステートメント

世の中は常に変化し続けています。その変化は、未体験の課題に対する、新たな行動とスピードを私たちに求めています。

だからこそ、私たちは挑戦します。人々の心と人生に影響を及ぼすことを胸に刻み、明日の教育・研究・臨床の創造に。

そのために、実際に地域の人々と向き合う病院を擁し、多様な社会に応える多職種連携をリードすることで、自己研鑽を重ね、周りとの連携し、人を愛で包み込む、粘り強いプロフェッショナルを育成します。

そして、時を重ねて紡いできた建学の精神を、未来につなぐことを誓います。

## 建学の精神

### 建学の精神

社会の福祉への奉仕  
人間への深い愛  
人間への幅の広い科学的理解

1972年の開学時に制定された本学の根源的な理念です。

# 新しいビジュアル

スローガンやビジョン、ステートメントなどの言葉だけではなく、兵庫医科大学が向かうべき方向性をビジュアルでも表現できるよう、新しいシンボルマーク・ユニバーシティカラー・ロゴタイプを制定しました。

## シンボルマーク・ユニバーシティカラー

「教育」「研究」「臨床」「地域貢献」という4つの活動が重なり合って連携する姿(円環)を表現

人々を癒す“落ち着き”と“活力”を感じさせる「深緑色」をユニバーシティカラーに設定



兵庫医科大学の頭文字「H」を斜体にすることで、ビジョンを実践する躍動を表現

## ロゴタイプ

# 兵庫医科大学

愛と科学を両立する大学を表現。「人間性や愛」を感じさせる手書きの印象を残す明朝体と、「科学と正確さ」を感じさせる定規で描いたようなゴシック体を融合した特別な文字形です。

## キービジュアル



新しいUIを広く周知するにあたり、メインとなるデザイン画像「キービジュアル」を設定しました。兵庫医科大学のブランドが統一感のあるデザインで伝わるよう、このキービジュアルをベースにさまざまな広告物を制作し、展開していきます。関西圏のJR・私鉄の全14駅には、2021年5月から看板の掲出を開始しました。

# 新UIに基づいた広報

2022年4月1日から新UIを使用するにあたり、大学広報のデザインも一新。新しい広告を制作し、すでに掲出がスタートしています。

## キービジュアルを展開させた募集広告

UIのキービジュアルのデザインを派生させ、主に受験生を対象とした入試広報用に「募集ビジュアル」を制作。「強い医療人になりたくないか。」という力強いメッセージでWEBサイトや交通広告等に掲出しています。  
(※2021年7月時点)



## コンセプトムービー

UIの奥に秘められた関係者の思いを広く、印象的に伝えるために制作したムービーです。人々を勇気づけるために大切にしていることを12名の大学・病院関係者から聞き、画面を切り替えながらテンポよく紹介しています。  
2021年5月7日よりYouTubeやWEBサイトで公開しているほか、受験生を対象とした入試相談会やオープンキャンパスなどのイベントでも放映予定です。



動画はこちらからご覧いただけます。

## 新UI特設サイト

新しいUIとその想いを紹介する特設WEBサイトを、2021年5月7日に公開しました。「トップページ」「University Identity」「Message」のページを先行公開し、大学・病院関係者を紹介した「Our Crew」ページを6月1日に追加。今後も、UIが決定するまでの検討プロセスの紹介や関係者のインタビューなどを追加するなど、内容を充実させていく予定です。



## コンセプトブック

新しいユニバーシティカラーやシンボルマークを印象的に打ち出し、新スローガンや大学・病院関係者の想いを掲載したコンセプトブックです。UIに関する詳細な説明をあえてしないことで、興味を引き立てる内容になっています。



# 新UIについてどう感じますか? ~学外・学内の声~

新しいUIについて、世の中の人々や在学生、教職員はどう感じたのでしょうか。  
内外さまざまなステイクホルダーに対するアンケートを実施し、率直な意見を聞いてみました。

## 学外の声

本法人とさまざまな形でお付き合いのある学外関係者の方に、  
新UIについての感想や今後の兵庫医科大学へ期待することをお聞きました。



関西学院大学 学長  
村田 治 様

これからの次代を担う世代への訴求として、力強く分かりやすいスローガンであると感じました。スマートフォンを優先的に考えられた斬新なコンセプトムービーや特設サイトも、時代のニーズと相まってより多くの方々に貴学のメッセージが届くのではないのでしょうか。貴学の建学の精神は、本学のスクールモットー「Mastery for Service」(奉仕のための練達)と相通ずる理念があります。現在のコロナ禍において、兵庫県の拠点病院として最前線で対応される付属病院・大学スタッフの献身的なご尽力を目にし、建学の精神である「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」をまさに体現されておられると敬服致しております。同じ西宮市にある大学として、人材の輩出とともに協力しながら、尽くして参りたいと思います。

丹波篠山市役所 保健福祉部 部長  
横山 実 様

教職員・在学生・関係者の皆様方が一致団結し、医療を通して人々を勇気づけることにより、次の新たな時代や未来を切り拓いていくのだという力強い決意やメッセージが感じられる素晴らしいUIであると思います。貴学が運営されている「兵庫医科大学ささやま医療センター」には、丹波篠山市における地域医療を担う中核病院として地域医療を支えていただき、新型コロナウイルス感染症への対応でも、昼夜を問わず、発熱患者や新型コロナウイルス感染症入院患者のご対応にご尽力いただいております。厚く感謝を申し上げます。貴学の建学の精神であります「社会の福祉への奉仕」、またシンボルマークで表現されている「地域貢献」での更なる躍動に基づきまして、今後も丹波篠山市をフィールドに臨床・教育・研究を通して、丹波篠山市及び丹波圏域の住民を末永く勇気づけ、また元気づけていただく(EMPOWER)ことを切に期待いたします。



阪神電気鉄道株式会社  
取締役  
小川 浩昭 様

貴学とは「阪神沿線健康講座」「HANSHIN健康メッセ」等、さまざまな健康施策で連携させていただいております。今後も地域の健康な暮らしに資する取り組みについて、ご一緒できれば幸いです。新しいUIには、患者さんに寄り添い誠実に向き合ってきた貴学が、50年を経てもさらに力強く地域医療を支え続けていくという姿勢を感じました。今後も地域の福祉を支えるかけがえのない存在として、益々のご発展を願っております。



兵庫医科大学  
後援会 会長  
清水 聡一郎 様

UI策定に至るまで色々な苦労があったと聞いていますが、いろんな人の思いが詰まった、いいUIができたと思います。私自身、卒業生、そして保護者として、兵庫医科大学が50周年を迎えることはとても感慨深く思います。しかし、50年というのはまだまだ「通過点」の一つであり、その先も末永く大学の歴史が続いていくことを願っています。



兵庫医科大学 ささやま医療センター  
支援グループ「ささゆり」代表 松本 正義 様

開学の理念に基づく理想を掲げ、未来の医療人を育む素晴らしいUIだと思います。今後も、市民目線を包含した医療人の育成と、丹波篠山の地域医療への貢献を望みます。

西宮市役所 産業文化局長  
岩崎 敏雄 様

シンプルですっきりとしたマークと、はっきりと読みやすい兵庫医科大学のロゴは地域の医療を担う貴校にふさわしく、市民にとっても親しみやすいと感じます。また、安全で安心なイメージを喚起させます。

社会医療法人 甲友会  
西宮協立脳神経外科病院 理事長  
大村 武久 様

「EMPOWER THE PEOPLE」というスローガンは現状に適合し、人々に訴える力強いスローガンで、一つ一つのメッセージも医療人にとってだけでなく、社会人にとっても必須の要素であり、わかりやすくまとまっていると思います。  
兵庫県東部、特に阪神間の医療福祉教育の中核大学として、地域医療福祉全体を視野に入れ、地域の医療機関や福祉に携わっている多くの人たちとともに多職種共生社会を創る中心になってほしいです。また、医療福祉関連の多職種の育成と地域の医療機関への人的サポートを今まで以上にお願いいたします。阪神メディカルアライアンスへの参加法人間の連携を深め、それぞれの施設の質の向上を図るため、リーダーシップの発揮も期待します。

神戸市役所 つなぐラボ ご担当者 様

大学統合によって医療が総合的に学べる大学として新たに動き出していきにあたり、学内の一体感・連帯感が大事になってくると感じます。「EMPOWER THE PEOPLE」というスローガンをもととする新しいUIは、いまの兵庫医科大学に求められているものと合致し、今後より一層飛躍していくものと感じます。西宮地域と神戸地域の2つの拠点とも地域・行政・産業界との連携を深めながら、地域に根差した大学として、さらに発展して欲しいと思います。

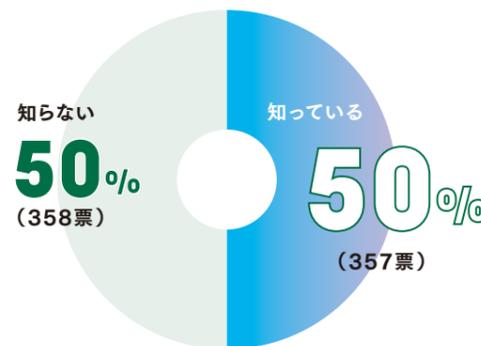
神戸学院大学 社会連携部 社会連携グループ ご担当者 様

人々に勇気や希望を与える、パワー溢れるスローガンだと感じました。新たなスタートをきる兵庫医科大学の一人ひとりが力を合わせ、チーム一丸となって心に響く医療をめざし、進化し続ける強い気持ちが伝わります。神戸を代表する医療総合大学であり、チーム医療が学べるという特色を活かして、今後も質の高い学びを提供し続けて欲しいです。

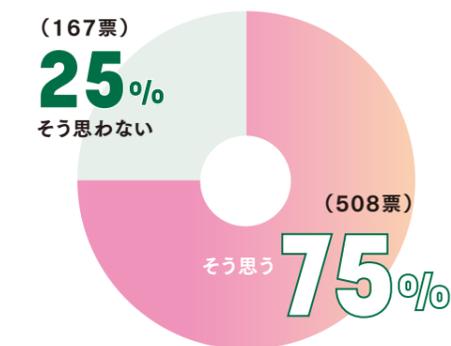
## 学内の声

6月9日～19日までの期間、西宮・神戸・篠山の3キャンパスで  
シール形式のアンケートを実施しました。

Q1 2022年に兵庫医科大学のロゴやスローガン  
が変わることを知っていますか?



Q2 新スローガン「EMPOWER THE PEOPLE」のように、人々に  
勇気や希望を与えられる医療人になりたいと思いますか?



### 編集部より

Q1は、回答が見事に半々に分かれさらなる周知の必要性を実感しました。一方、Q2は過半数が「そう思う」と答え、認知の有無にかかわらず、多くの学内関係者が新UIの考えに基づく志を持っていることが分かりました。

### 新UIを、次の50年の指針に



全員で描いた「一人ひとりの人生が豊かな社会」という夢がいつの日か現実となるよう、「心に響く医」を胸に、全員で一丸となって教育・研究・診療・地域貢献に取り組んでいければと思います。兵庫医科大学のこれからにご注目ください。

兵庫医科大学 学長 野口 光一

## CONTENTS

- 01 特集 次の50年への新しい一歩 新UI決定
- 12 NEWS & TOPICS
  - ・学生が選んだ「2020年度 ベストティーチャー賞」が決定
  - ・学生が選んだ「レクチャー・オブ・ザ・イヤー2020」が決定
  - ・特設WEBコンテンツ「もっとよく知る!病気ガイド」を公開
  - ・研究医コースの学生が「日本解剖学会総会・全国学会集」で優秀賞を受賞
  - ・薬学部のゼミ生が薬草「トウキ」のレシピブックを制作
  - ・入学生特別奨学金奨学生証を授与
  - ・感染リスクの低減をめざし「来院前問診」を開始
  - ・妊娠中の自宅の増改築と生まれた子どもの喘鳴(ぜんめい)・反復性喘鳴の発症頻度との関連を解析
  - ・片山病院長が「兵庫県功労者表彰」を授受
  - ・「受験生向けWEBサイト」を公開
  - ・オンライン型イベント「6月オープンキャンパス」を開催
  - ・新型コロナウイルス感染症の治療対応数が1,832名に
  - ・ダイバーシティ研究費助成の採択者が決定
- 13 卒業生 INTERVIEW
  - 現場で集めた日々のデータを論文で発表  
臨床と研究を循環させ、成果を患者さんへ還元する  
関西ろうさい病院 循環器内科 第三循環器内科部長  
飯田 修さん(兵庫医科大学2001年卒)
- 15 HYO-i LAB -研究紹介-
  - 現代人のQOLを低下させるアレルギー性疾患  
その発症機構をひもとき、新しい治療法の開発へ繋げる  
兵庫医科大学 免疫学講座  
主任教授 黒田 悦史
- 17 兵庫医科大学創立50周年特別企画  
50年の歩み Vol.2 1986年-1998年
- 19 のぞいてみよう 兵医の授業紹介
- 法人からのお知らせ
- 20 開学50周年記念 新病棟建設事業募金を募集  
医療関係者との交流を目的とした  
「兵医サタデーモーニングセミナー」を開催  
人事情報
- 21 2021年度 学校法人 兵庫医科大学 事業計画・予算
- 23 2020年度(令和2年度)決算について
- 25 募金状況/主な行事予定(8月~10月)



## 学生が選んだ「2020年度 ベストティーチャー賞」が決定

2021年3月24日、兵庫医科大学の「2020年度ベストティーチャー」の表彰を行いました。本学では、質の高い充実した授業を提供することをめざし、毎年「学生による授業評価アンケート」を実施のうえ、学生から支持された担当教員に同賞を授与しています。2020年度の受賞者は次のとおりです。



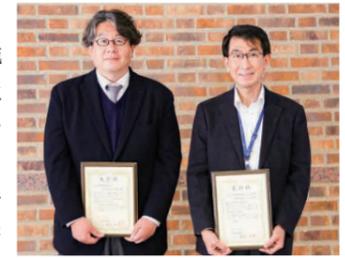
※所属・役職は受賞時のもの



## 学生が選んだ「レクチャー・オブ・ザ・イヤー2020」が決定

2021年4月7日、兵庫医療大学の「レクチャー・オブ・ザ・イヤー2020」の表彰式を行いました。

この賞は、2020年度学生に前期・後期の授業評価アンケートを実施の上、学生から支持された担当教員に授与されます。教育方法の工夫や学生へのきめ細やかな対応がなされ、優れた教育効果をあげたことで表彰されました。受賞科目および当該科目責任者は右記のとおりです。



表彰状を手にした勝野教授(左)、山本教授(右)

受賞科目 (開講年次/開講期/選必区分)	科目責任者
「新・生理化学V(内分泌・泌尿・生殖)」 (薬学部 2年/後期/必修)	山本 悟史 教授 (薬学部)
「助産診断技術学II(助産診断実践過程)」 (看護学部 4年/前期/選択)	岡田 公江 准教授 (看護学部)
「助産診断技術学I(周産期・新生児の健康診査)」 (看護学部 4年・前期/選択)	
「一般臨床医学」 (リハビリテーション学部 3年/前期/必修)	勝野 朋幸 教授 (リハビリテーション学部)

※所属・役職は受賞時のもの



## 特設WEBコンテンツ「もっとよく知る!病気ガイド」を公開

2021年4月13日、兵庫医科大学病院公式WEBサイトにて、患者さん向けの特設WEBコンテンツ「もっとよく知る!病気ガイド」を公開しました。

病気のことを正しい知識で理解していただくため、各診療科の医師が疾患ごとに「概要」「検査」「治療」などについてわかりやすく解説しています。また、患者さんが知りたい病気について、体の部位から選んで検索することができます。

■サイトURL [https://www.hosp.hyo-med.ac.jp/disease\\_guide/](https://www.hosp.hyo-med.ac.jp/disease_guide/)



トップページ

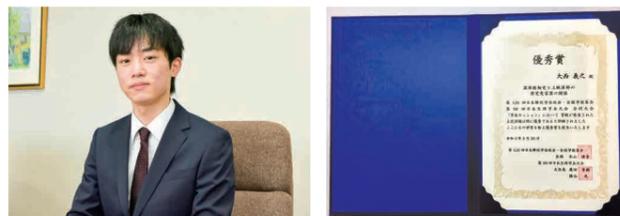
疾患詳細ページ

## 医科大 研究医コースの学生が「日本解剖学会総会・全国学術集会」で優秀賞を受賞

2021年3月28日から30日にかけてオンラインで開催された「第126回日本解剖学会総会・全国学術集会 / 第98回日本生理学会大会 合同大会」にて、兵庫医科大学 医学部5年次の大西義之さんが「学生セッション」でプレゼン発表をし、優秀賞を受賞しました。受賞した演題は、「深部振動覚と上腕深部の感覚受容器の関係」です。

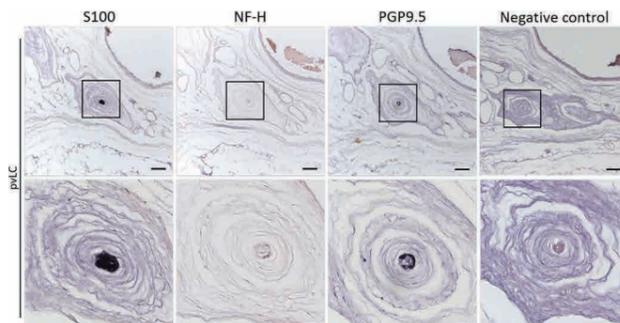
また、同テーマの論文は解剖学の学術誌「Journal of Anatomy」の7月号にも掲載されました。

大西さんは、「学会での優秀賞受賞に加え、海外の学術誌でも論文が掲載され、地道に取り組んできた研究が評価されたことをとてもうれしく思います。今後もこの経験を通じて得た“リサーチマインド”を大切に、医学の発展に少しでも貢献できるような医者になりたいです」と話しました。



研究医コース5年次 大西さん

表彰状



分析データ

**■研究演題**  
Relationship between lamellar sensory corpuscles distributed along the upper arm's deep arteries and pulsating sensation of blood vessels

**■掲載誌**  
"Journal of Anatomy" July 2021

## 医科大 入学生特別奨学金 奨学生証を授与

2021年4月27日に入学生特別奨学金奨学生証の授与式を学長室にて執り行いました。入学生特別奨学金は、2021年度入学試験の一般選抜(前期A日程・スタンダード型)、大学入学共通テスト利用入学試験(学力重視型・前期日程)において優秀な成績の方が対象で、兵庫医療大学に入学した奨学生4名に藤岡学長から奨学生証と記念品が授与されました。



特別奨学生4名と藤岡学長(一番左)

## ささやま 感染リスクの低減をめざし「来院前問診」を開始

2021年5月11日、ささやま医療センターでは、外来待ち時間の短縮や新型コロナウイルス感染症等の患者さんとの接触リスクの低減を目的に、来院前問診を開始しました。

来院前に自宅からPCまたはスマートフォンで事前問診に回答いただくことで、来院してからの待ち時間が短縮できます。回答までの所要時間は約3分ほどです。



来院前問診の案内

## 医科大 薬学部のゼミ生が薬草「トウキ」のレシピブックを制作

薬学部の課題解決型UDゼミの学生が、兵庫県丹波市の山南地域で栽培されている薬草「トウキ」の葉が料理にも使えることを周知するために「薬学生が考えた!お手軽トウキ葉レシピブック」を制作しました。

これは、兵庫県との連携事業「もっと兵庫の薬草を知ろう、広めよう、味わおうプロジェクト」の一環で行われたもので、コロナ禍で多くの学外活動が制限されるなか、学生たちは「自宅でもできることを考えよう」と2020年10月から制作に取り組んできました。レシピブックでは、学生らが考案した21種類のトウキ葉を使ったレシピを紹介しているほか、冊子のデザインにも挑戦しました。同冊子は、丹波市立薬草薬樹公園で配布されているほか、プロジェクトのWEBサイトからもダウンロードできます。



レシピブック

制作した薬学部生

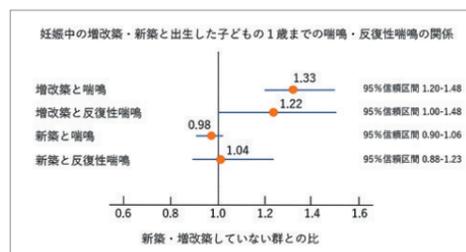


「薬活オウルズ」の活動についてはこちらからもご覧いただけます。

## 医科大 妊娠中の自宅の増改築と生まれた子どもの喘鳴・反復性喘鳴の発症頻度との関連を解析 ～子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の研究成果～

兵庫医科大学の小児科学およびエコチル調査兵庫ユニットセンター(代表研究者: 島 正之センター長)らの研究チームは、子どもの健康と環境に関する全国調査の約7万5千人のデータをもとに、妊娠中の新築・改築と生まれた子どもの乳児期の喘鳴(ゼーゼー、ヒューヒューする呼吸)発症の関係について解析しました。

その結果、妊娠中に自宅の増改築を行った妊婦から生まれた子どもは、しなかった妊婦から生まれた子どもに比べて生後1歳までの喘鳴・反復性喘鳴の発症頻度が高いことが明らかとなりました。一方で、妊娠中に自宅を新築した家庭としなかった家庭では、生まれた子どもの生後1歳までの喘鳴の発症頻度に差がみられません。本研究の成果は、2021年5月29日にアレルギー分野の学術誌「Allergology International」に掲載されました。



増改築・新築と喘鳴・反復性喘鳴の関係

**大学病院** 5/7-5/27  
看護の日(5/12)にちなんで「約1,000名の看護師の思い」を記した特製パネルを展示。コロナ禍において懸命に働く看護師の日頃の活動を患者さんにご覧いただきました。



**大学病院** 6/2  
がん治療に伴う外見変化にお悩みの患者さんを対象とした「アピアランスケア(外見支援)相談会」のオンライン開催を開始しました。



**医科大 医療大** 5/27, 31  
高校教員を対象とした設置予定3学部(理学部・工学部・薬学部)の2022年度入試説明会を、兵庫医科大学と岡山県のおかやま西川原プラザの2カ所で開催しました。



**医科大** 6/1-6/4  
兵庫医科大学として初となる医学教育分野別評価の実地調査が4日間オンラインで行われました。日本医学教育評価機構からの評価報告書は後日送付される予定です。



## 片山病院長が「兵庫県功労者表彰」を授受 ～長年の感染症対策の取り組みが評価～

2021年5月3日、ささやま医療センターの片山 覚病院長が兵庫県から「2021年度 兵庫県功労者表彰」を授与されました。

兵庫県では、県政の伸展、公共の福祉増進に功労のあった方、その他広く県民の模範となった方を、知事が県民を代表して表彰しています。片山病院長は、丹波圏域の新型コロナウイルス感染症への対応をはじめとして、約40年間の結核医療への取り組み、丹波・和田山健康福祉事務所における感染症審査委員としての活動など、長年にわたる地域の感染症対策への取り組みなどが評価され、今回の受賞に至りました。



表彰に伴う花束贈呈

## 新型コロナウイルス感染症の治療対応数が 1,832名に(2021年6月23日現在)

2020年3月1日、兵庫県で1例目となる新型コロナウイルスの感染が西宮市で発生して以来、兵庫医科大学病院では全職員が一丸となって感染に対処してきました。兵庫県の重点医療機関として、ECMOや人工呼吸器、高流量酸素投与を行う重症患者さんを2021年6月までの約16カ月間で147名受け入れ、感染症外来では1,832名以上の患者さんの診療にあたってきました(2021年6月23日時点)。現在までクラスターの発生はなく、これは1,000床規模の医療機関では珍

しいことです。これも、感染制御部を中心に、職員が一丸となって感染対策に取り組んだ結果であります。

また、第4波による感染拡大状況と病床ひっ迫状況に鑑み、重症患者の受け入れを促進するため、2021年5月31日より現在の重症患者受け入れ病床24床(EICU、CCU病棟)に加えて、病棟の一部をCOVID-19 対応病床(中軽症患者以下)として開設し、運用を行っています。



新型コロナウイルス感染症の治療にあたる病室



## 「受験生向けWEBサイト」 を公開

2021年5月14日、兵庫医科大学と兵庫医療大学の大学統合予定(※)に向け、「受験生向けWEBサイト」を公開しました。新たな受験生募集ビジュアルを通じて、4学部(※)の概要や2022年度入試情報、学生生活、就職情報など、来年度より新体制(※)となる兵庫医科大学の特長や魅力を紹介しています。今後も内容を拡充し、さまざまな告知活動を展開していく予定です。

※現在、文部科学省に設置認可申請中で変更の可能性あり  
■受験生サイトURL <https://www.admission.hyo-med.ac.jp/>



トップページ  
3分でわかる兵庫医科大学  
学部紹介  
キャリア形成・就職サポート

## オンライン型イベント 「6月オープンキャンパス」を開催

兵庫医科大学では6月5日、6日、19日、20日の4日間、新設予定(※)3学部(薬学部、看護学部、リハビリテーション学部)のオープンキャンパスを来場型で実施する予定でしたが、緊急事態宣言の延長に伴い、オンライン型のオープンキャンパスに変更し、6月5日から30日までの期間で実施しました。本イベントでは、事前に申し込みをした高校生に「3学部の特長」「各学部の学び」「2022年度入試情報(予定)」などを紹介した特別動画を期間限定で配信しました。また、当初来場型イベントを実施する予定であった4日間は、オンライン個別相談を実施し、申し込みのあった高校生に対して、入試広報担当職員が入試制度や学生生活などについてさまざまな質問に答えました。



兵庫医科大学 新設予定3学部  
ガイダンス  
プロモーションムービー  
入試概要説明  
学部企画

※現在、文部科学省に設置認可申請中で変更の可能性あり

## ダイバーシティ研究費助成の採択者が決定 ～研究活動の支援で多様な人材の創出へ～

兵庫医科大学は、2020年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特性対応型)」に採択されました。本事業によって研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげる取り組みを支援するため、2021年5月27日～6月10日にかけて学内公募を実施し、合計10件の研究課題への助成が決定しました。採択された研究課題は右のとおりです。

### 2021年度 ダイバーシティ研究費助成 採択者一覧

①キャリア支援		②リーダーシップ向上(講師以上)	
氏名(職名/所属)	研究課題名	氏名(職名/所属)	研究課題名
土居 亜紀子 (助教/神経再生研究部門)	脳梗塞病態下のミクログリア/マクロファージ除去による脳内炎症制御が傷害/虚血誘導性神経幹細胞を起点とした神経再生機構に与える影響	吉川 良恵 (講師/遺伝学)	BAP1生殖細胞系変異を有しない家族性悪性中皮腫患者の易罹性遺伝子の探索
孫 安生 (助教/病原微生物学講座)	潰瘍性大腸炎発症における病原性常在菌Fusobacterium ulceransの役割解析	合田 亜希子 (講師/循環器内科)	心不全患者における左房機能と心内圧との関係について
北中 順恵 (講師/薬理学講座)	依存性薬物の嗜好性発現と確立に寄与する細胞内情報伝達系の解明	③スタートアップ(復職3年以内)	
吉原 亨子 (助教/血液内科)	液性免疫不全状態にある血液疾患患者における新型コロナウイルスワクチン接種後の抗体産生に関する検討	氏名(職名/所属)	研究課題名
大東 真菜 (助教/糖尿病内分泌・免疫内科)	糖代謝、睡眠障害、認知機能障害の相互関連についての検討	角谷 美樹 (助教/糖尿病内分泌・免疫内科)	睡眠の質、自律神経機能と対糖能異常およびインスリン分泌能の変化の関連について
		今坂 舞 (助教/遺伝学)	新規糖尿病モデル:lincRNA-p21過剰発現マウスの解析
		江口 明世 (助教/医療クリティカルマネジメント学)	オーラルフレイルと心不全の予後についての検討

6/7  
丹波篠山市内に在住の65歳以上の方を対象に、ささやま医療センターにて新型コロナウイルスワクチン接種を開始しました。



6/19  
中医薬孔子学院第8回学術シンポジウムは、「東西医学の融合—腫瘍に対するアプローチ」をテーマにオンライン形式で行われました。



6/29  
ダイバーシティ推進事業 キックオフ講演会はオンラインで開催し、久留米大学 矢野副学長やJST山村主幹の基調講演を、学内外の関係者約100名が視聴しました。



6/29  
医学部のオンライン入試相談会を実施中。受験生からのさまざまな相談に入試担当職員が答えています。



## 卒業生 INTERVIEW

関西ろうさい病院  
循環器内科 第三循環器内科部長

**飯田 修** さん (兵庫医科大学2001年卒)

Osamu Iida

## PROFILE

2001年に兵庫医科大学を卒業後、大阪大学にて1カ月の研修のち、関西ろうさい病院で循環器医として勤務。主に抹消動脈疾患や大動脈瘤などの治療を担当。循環器内科副部長を経て2021年に第三内科部長に就任。日本循環器学会においてガイドライン作成の内科班長も務める。

## 現場で集めた日々のデータを論文で発表 臨床と研究を循環させ、成果を患者さんへ還元する

### 研究と年間600件以上の手術を両立

兵庫医科大学から武庫川を挟んで対岸に位置する関西ろうさい病院で、循環器内科の臨床医として勤務する飯田氏。年間600件以上の手術をこなす上に、論文執筆や学会発表、そして日本循環器学会のガイドライン作成の大動脈瘤と末梢動脈疾患の分野で班長に抜擢されるなど、多岐にわたる活躍ぶりだ。「手術や治療を通して、患者さんの状態が劇的に良くなるというのが循環器内科。そういうところにやりがいを感じますし、理屈がわかれば治療もうまくいくので、学生時代の勉強も楽しかったですね」と振り返る。

多忙をきわめる中でも、研究や論文執筆は欠かさない。その背景には、過去に指導を受けた恩師の存在がある。「若手の頃にお世話になった先生方からは、いつも『臨床医は臨床だけじゃあかん』『他流試合をしない』と言われていました。その教えのとおり、国内外問わず多くの学会に参加し、積極的にほかの医師と意見を交わすなど、常に外部の客観的な意見を取り入れているという。「様々な価値観を持つ人たちに自分の研究を見てもらうことは、必ず自分にとってプラスになります。教科書に書いてあることだけでは患者さんは助けられませんから、日々の臨床にも研究への取り組みは生かされています」。自分たちがやってきた治療を検証していくことで生まれる新しい発見もある。それが患者さんに喜んでもらえるような治療にも繋がっていくという。

### 臨床で蓄積されたデータが未来の治療指針に

循環器疾患は、緊急性を要するものや、時には大きな決断を強いられることもある。「他の病院で手を尽くされた結果、最終的な決断をするために当院に来

られる方も多く、私たちの言葉の重みは大きい。重要な決断は自分たちの主観や直感だけでは決められません。その医師としての直感を助けるために、数多くの手術から積み重ねてきたデータがあります。それを目の前の患者さんに還元していかないと。臨床と研究は常にリンクしているのです」。

飯田氏は現在、日本循環器学会ガイドライン作成の内科班長も務めており、日々の臨床現場で集められたデータは、日本の循環器治療における新たなガイドラインの作成にも結びついているという。現在の疾患構造は、飯田氏が医師になった頃と比べると明らかに変わっている。教科書には昔の論文や海外の事例など、今の臨床にフィットしていないものも含まれているのだ。そこで、20年以上の経験から得た数々の症例におけるクリニカルクエスチョンを研究にぶつけ、検証と実証を進めるというプロセスで、ガイドラインにまとめている。他施設の先生方とも協力し、日本の治療方針の道筋を作っていくことが責務だと感じているという。

### 批判から逃げず、一生をかけて好きな仕事を

これだけの成果を挙げながらも「やらないといけないし、やり続けるしかない。誰よりも手術して、論文を書いていかないと」と語る飯田氏の飽くなき探究心には、臨床医をめざす学生にも学ぶところは多いはず。「やっぱり好きなことには敵わないので、医療人である以上、自分の中でそれを探しながら働くという必要性があると思います。誰も自分にとって転機になる症例が絶対にあるので、やりがいを感じる瞬間を見つけてほしい。そして、あえて批判を受けて、その批判から逃げないこと。人に批判され、それを跳ね返す力で成長する。簡単なことだけやっても成長できないし、ずっと逃げていると、本当に乗り越えなければいけないときに乗り越えられなくなってしまふ。失敗を積み重ねているということは、その度に跳ね返してきた証でもありますからね」と在学生へのエールを送った。



### 私と医科大

在学生時代はサッカー部に所属していました。サッカーも勉強も負けるのが嫌で、勉強と部活動、どちらにも精力的に取り組んでいました。当時の友人とは今も強い絆で結ばれています。



サッカー部の仲間たちと(真ん中が飯田氏)



HYO-i LAB

研究紹介

## 現代人のQOLを低下させるアレルギー性疾患 その発症機構をひもとき、新しい治療法の開発へ繋げる

兵庫医科大学 免疫学講座

主任教授 黒田 悦史

日本や先進国を中心に患者数が増加傾向であるアレルギー性疾患は、その要因の一つとして、大気中のPM2.5や黄砂などの微粒子の関与が示唆されている。いまだにそのメカニズムの全貌は明らかにされていないが、黒田教授らの研究グループは、微粒子の吸入によって引き起こされるアレルギー性炎症の発症のメカニズムを解明。新たな治療法の開発へと繋がる大きな糸口となるはずだ。



### 解き明かされていない多くのメカニズム

「花粉症や身の回りのアレルギー性疾患は、私たちのQOLを低下させる大きな要因です。しんどいうえに、一度患ってしまうとなかなか治りません。現在の対症療法ではなく、根治できる治療法を導き出したいです」と語るのは、免疫学の中でもワクチン、アジュバント、アレルギーに関する分野を専門とする黒田教授。

バイオテクノロジーの興隆期である90年代に大学生だった黒田教授は、遺伝子工学の研究室で生物学の面白さに目覚めたのち、医学的な分野にも関心を寄せ、抗生物質耐性菌の研究室へ。そこで、免疫学の勉強会に参加したことがきっかけとなり、免疫学の世界へ足を踏み入れた。免疫細胞の中でもマクロファージや樹状細胞を研究し、その後、現在の専門であるワクチン、アジュバント、アレルギーの分野に行き着いた。

病原体が免疫を活性化させる仕組みは現在では明らかになっていることも多いが、黄砂やPM2.5のような大気中の微粒子が免疫を活性化させるアジュバント効果を有しているというメカニズムは解明されていない。同じく、ワクチンの免疫原性を高めるために併せて投与される物質であるアジュバント（多くの場合はアルミニウム粒子を使用）も、そのメカニズムの詳細はいまだに不明だという。「1930年代に、アルミニウムが入ったワクチンを動物に投与することでワクチンの効果が上がったことから、人間にも応用されるようになりました。安全で有効なのですが、なぜ効くのかというところがわかっていません。一方で、アジュバントが免疫を活性化した結果、アレルギーを引き起こすこともあります。その有効性と安全性を明らかにしていくのが私のメインテーマの一つです」。

### アレルギー治療に光を射す新たな発見

黒田教授らの研究グループによって、微粒子の中には、アレルギー性炎症を起こすものと起こさないものがあるということがわかった。前者は、肺の掃除屋である肺胞マクロファージの細胞死を誘導し、その結果として放出されたIL-1アルファ

という免疫刺激因子が異所性リンパ節の誘導を介して、アレルギーの原因因子の一つであるIgEを誘導する。後者は、肺胞マクロファージの細胞死を引き起こさない微粒子なので、吸入しても何も起きないようだ。「ウイルスや細菌が肺に付着しても、通常は肺胞マクロファージが貪食して処理しますが、微粒子の場合は金属などの無機微粒子なので、肺胞マクロファージが食べても消化できず、破裂して死んでしまうんです。その時に細胞の中にあつた免疫を刺激する分子が出て、免疫反応が起きてしまう。これがアレルギーの発端になっているのではということです」。

さまざまな分野と協働しての研究も進められている。日本化学工業協会によるLRI委託研究課題として、動物実験をせずに肺胞マクロファージを使用することでアレルギーを起こしやすい微粒子を短期間で分別する新たな評価法の研究や、産学連携でのアレルギーの新たな治療法の共同研究などが行われている。

### 真実を見つけるための毎日の積み重ね

「肺胞マクロファージの細胞死によって誘導されるIL-1アルファを見つけたきっかけは偶然でした」と語る黒田教授が一番大切にしていることはサイエンスを楽しむこと。「研究って派手に感じる人もいるかもしれませんが、毎日研究していても、すごい発見や面白い研究成果にいつも出会えるわけではなく、うまくいかないことが多いです。でも、実験結果を見ながら自分なりの仮説を立てて少しずつ進んでいく。自分が考えた仮説やアイデアで少しずつ真実が解き明かされていく過程、そして毎日の積み重ねから得られる偶然の発見などを学生に楽しんでもらいたいです」。

最後に、黒田教授が現在一番力を入れて研究されている内容を聞いた。「個人としてはアジュバント研究です。アレルギーの分野でもアジュバントをうまく使えば治すことができるという説もあります。アジュバントは免疫を活性化させるだけでなく、アレルギー反応を抑えることもできるとも言われています。アジュバント研究からアレルギーの原因解明に繋がればと思っています」。



免疫学教室ではアレルギーやアレルギー様の症状を呈する寄生虫感染などを通して、免疫応答のメカニズムを細胞レベルおよび分子レベルで理解することで、アレルギー性疾患をはじめとする炎症性疾患の発症機構をひもとき、疾患の予防や治療に貢献することを目標としている。

### URAからひと言！

免疫には正と負の側面がある。黒田教授は、「アレルギー性炎症を起こしやすい微粒子」の存在に着目し、アレルギー性炎症のメカニズムを解明した。一方、アジュバントの通常とは逆の効果「アレルギーを治す可能性」にも着目している。こういった新たな視点で、COVID-19における増悪化の抑制など、免疫暴走が原因の疾患の治療に繋がることが期待される。【太田 英樹URAより】

URA (University Research Administrator) とは、研究者とともに研究活動の企画やマネジメント等を担い、研究活動の活性化に寄与する職種です。現在、本法人には1名のURAが在籍しています。